

令和 9(2027) 年度東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻修士課程入学志願者案内

1. 出願資格

入学志願者は大学院出願資格（詳細は工学系研究科修士課程学生募集要項を参照）を有していなければならない。ただし、その専門分野および資格取得年次は問わない。
なお、令和 9（2027）年度の修士課程の入試は年 1 回でここに示される試験だけである。

2. 希望指導教員と出願書類について

大学院入学者は指導教員のもとで研究を行うので、入学志願者は研究の指導を希望する教員名（第一希望、第二希望、第三希望、各 1 名ずつ）を、3～4 ページに示す指導教員の一覧から選択し、「WEB 出願システム」に記入すること。別紙 1 は出願時に、他の出願書類と共にアップロードすること。

建築学専攻の受験には以下を提出する必要がある。(1)、(2) については、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出すること。

(1) 「WEB 出願システム」に希望指導教員と専門課題 II で選択する群を記入すること。また、別紙 1 に希望する研究テーマについて記載すること。

(2) 「英語能力試験の成績証明書」：英語能力は受験者の提出する TOEFL iBT、または TOEFL iBT Home Edition の公式スコアで評価する。スコアの提出方法は、工学系研究科が配布する「工学系研究科入試 TOEFL スコア提出要項」の指示に従うこと。TOEFL スコアの提出期限は 2026 年 8 月 5 日とする。提出する TOEFL スコアは 2024 年 9 月以降に受験したものに限り。ただし、次の条件を満たす場合には、TOEIC L&R の公式スコアで英語能力の評価を代替することができる。

- ・ 出願時に、国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）が発行する TOEIC L&R の「デジタル公式認定証」（2024 年 9 月以降に受験したもの）を提出すること。

3. 募集人員と入学時期

2027 年度の建築学専攻・修士課程の募集人員は 32 名である。なお、建築学専攻では、入学後の研究指導が特定の教員に偏ることを避けるため、教員一人当たりの受入人員に制限を設けている。合格者の入学時期は、通常、2027 年 4 月である。なお、工学系研究科修士課程学生募集要項にも記述があるが、2026 年 9 月までに大学を卒業あるいは卒業見込みであれば、2026 年 10 月に入学することが可能である。ただし、外国籍の入学志願者は、在留資格認定証明書 COE の発行が遅延する傾向にあることから 2027 年 4 月入学を強く勧める。

4. 選抜方法

以下に示す筆記試験及び口述試験を行い、受入予定者を選抜する。

(A) 筆記試験

試験科目	試験時間	適 用
1. 外国語 ^{※1}		英語 TOEFL または TOEIC の公式スコアを所定の方法で提出。
2. 専門科目 ^{※1}		
①専門課題 I	3 時間	①は建築学に関する基礎的な課題である。
②専門課題 II	3 時間 または 4 時間	②については次の 4 群の中からいずれか 1 群を選択して解答する。選択する群を、出願時に「WEB 出願システム」に記入すること。 第 1 群 建築設計課題 (4 時間) 第 2 群 建築計画・建築史・構法系課題 (3 時間) 第 3 群 建築環境系課題 (3 時間) 第 4 群 建築構造・建築材料系課題 (3 時間)

※1 外国語・専門科目（専門課題Ⅰ・専門課題Ⅱ）のすべてを受験しないと失格になる。

(B) 口述試験

一人当たり数分程度の面接を行う。面接の使用言語は日本語または英語とする。口述試験を受けない場合は失格とする。

5. 試験日程

試験科目	日 時	携行品 [§]	備考（重要）	
(A) 筆記試験	英語		スコア提出	
	専門課題Ⅰ	9月1日（火） 9:00～12:00	鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、三角定規	
	専門課題Ⅱ 第1群	9月2日（水） 9:00～13:00	専攻 Web サイトを確認のこと	
	専門課題Ⅱ 第2群 第3群 第4群	9月2日（水） 9:00～12:00	鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、三角定規	
(B) 口述試験（面接）	9月4日（金） 9:00～14:00		集合場所・時間等の詳細は本専攻の Web サイト（ https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/ ）に掲載する。	

※ 試験開始後 30 分を過ぎての入室は、いかなる事情があっても認めない。

§ 携行品および試験時に持ち込み可能なものリストは専攻 Web サイトを確認すること。

6. 注意事項

- (1) 入学試験受験上の注意（本専攻の Web サイトに掲載予定（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>））をよく読んでおくこと。
- (2) 受験票の写真で試験時に本人照合を行う。本人と確認できない場合は、失格となることがある。写真を修正した場合は失格とする。
- (3) その他、本専攻 Web サイト（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>）で、試験会場ならびに試験での携行品を含む関連情報を周知するので、随時確認すること。

7. 問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻
E-mail : exam@arch1.t.u-tokyo.ac.jp

建築学専攻の指導教員と専門領域の一覧（教員名は五十音順）

一覧に記載されている教員は受入れが可能であるが留意事項のある教員については事前に問合せを行い、指導方針について確認を行うこと。

教員名	所属	系	専門領域
赤司 泰義 教授	工・建	環境	建築エネルギーシステム、建築熱環境、運用・管理、コミッションング
浅井 竜也 准教授	生 研	構材	耐震工学、耐津波設計、鉄筋コンクリート構造
糸井 達哉 准教授	工・建	構材	リスク・レジリエンス工学、荷重論、地震工学
今井 公太郎 教授	生 研	計画	建築計画・建築設計・都市解析
伊山 潤 教授	工・建	構材	鋼構造・耐久性工学・地震波動解析
岩船 由美子 教授	生 研	環境	エネルギーシステム評価
海野 聡 准教授	工・建	歴史	日本建築史・東アジア木造建築史・文化遺産
大岡 龍三 教授	生 研	環境	都市・建築環境工学(熱・空気・エネルギー)・サステナブルエンジニアリング
大月 敏雄 教授	工・建	計画	建築計画・住宅地計画・ハウジング・住宅政策・復興デザイン
岡部 明子 教授 ^{*1}	工・建	意匠	建築・都市環境デザイン、建築まちづくり
加藤 耕一 教授	工・建	歴史	西洋建築史・近代建築史・建築理論
川添 善行 准教授	生 研	意匠	建築意匠・風景論
菊本 英紀 准教授	生 研	環境	都市・建築環境、環境制御工学
クアン セン 特任教授 ^{*3}	工・建	意匠	近代建築史・建築理論・建築アーカイブ
楠 浩一 教授	震 研	構材	耐震工学・強震観測・鉄筋コンクリート構造
腰原 幹雄 教授	生 研	構法	木質構造・建築構法
権藤 智之 准教授	工・建	構法	建築生産・建築構法
斎藤 豪 特任准教授 ^{*2}	工・建	構材	セメント化学・資源循環型建築材料・建築材料化学・分析化学
坂本 慎一 教授	生 研	環境	建築音響・騒音制御
佐久間 哲哉 教授	工・建	環境	音環境・建築音響・騒音制御・居住環境
田尻 清太郎 准教授	工・建	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造
舘 知宏 教授	総文研	構材	構造幾何学、コンピューショナルデザイン
谷口 景一郎 特任准教授 ^{*1}	工・建	環境	建築環境エンジニアリング、建築環境シミュレーション
豊田 啓介 特任教授 ^{*1}	生 研	意匠	デジタル空間記述・コモングラウンド
中尾 俊介 講師	工・建	歴史	都市史、都市計画史、土木史、領域史
林 憲吾 准教授	生 研	歴史	アジア都市・建築史、アーバンサステイナビリティ学
平野 利樹 特任准教授 ^{*3}	工・建	意匠	建築意匠・コンピューショナルデザイン・建築論
藤田 香織 教授	工・建	構法	木質構造・伝統構法
本間 健太郎 准教授	生 研	計画	建築計画・空間デザイン数理
本間 裕大 准教授	生 研	計画	建築・都市計画、交通工学、社会システム工学、数理最適化
毎田 悠承 准教授	震 研	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造・損傷制御
前 真之 准教授	工・建	環境	建築環境 特にサステナブル住宅のデザインと要素技術開発
松田 雄二 准教授	工・建	計画	建築計画、医療福祉施設計画、ユニバーサルデザイン
丸山 一平 教授	工・建	構材	資源循環・低炭素材料開発、極限環境材料開発、保全工学
宮田 翔平 特任講師 ^{*1}	工・建	環境	スマートビルシステム、建築設備
武藤 宝 講師	生 研	構材	構造解析・空間構造工学
安原 幹 教授	工・建	意匠	建築意匠・建築設計
山田 哲 教授	工・建	構材	鉄骨構造・耐震工学・免震構造・制振構造
吉岡 英樹 准教授	工・建	構材	建築防火工学、都市防火

(注) 所属 工・建：工学系研究科建築学専攻 本郷
震 研：地震研究所 弥生
生 研：生産技術研究所 駒場Ⅱ
総文研：大学院総合文化研究科 駒場Ⅰ
系 構材：構造・材料系

(留意事項)

- *1 2028年3月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
- *2 2029年3月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
- *3 2030年5月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
- ※1 2028年3月退職予定 関連教員による指導継続の予定

【希望する研究テーマについて】【Future research】

面接試験の参考にするので、研究内容などを具体的に記述すること。受入研究室の選定理由も記載ください。複数ある場合は複数の選定理由を記載してください。なお、本項目は1頁に収めてください。

Please provide the specific research details for the interview. Please provide the reason(s) for selecting the host laboratory(ies). Please limit this section to one page.